

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 高石市

実践研究校名 東羽衣小学校

【公開授業】 公開日：平成25年11月27日

対象学年：第5学年

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 (単元名) What's this?	(本時の指導の目標) ・ ある物について、積極的にそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。また、その表現に慣れ親しむ。 ・ 日本語と英語の共通点や相違点から言葉の面白さに気づく。
--	---

(本時の授業において工夫した点)

- ・ 英語が楽しいと思え、全員が不安なくアクティビティに参加できる雰囲気づくりに配慮した。
- ・ 歌やアクティビティなど、できるだけ自由度の高い方法を選んだ。
- ・ 教師の説明が短くなるよう、掲示物などを工夫した。
- ・ HRT、JHET で分担して効率的かつ効果的に活動が進むようにした。

(授業を終えた教員の感想)

- ・ 子どもたちは、積極的に英語を話そうとしていた。
- ・ クイズ形式で、子どもたちに言葉の面白さについて気付かせることができた。
- ・ めあての言葉がわかりにくかったため、もう少し工夫して子どもたちにわかりやすい言葉を選ぶべきだった。

【研究協議会】

(テーマ) いきいきと自分の思いを伝える 子どもの育成をめざして	(指導・助言者) 高石市教育委員会 主幹 山崎 陽子
--	----------------------------------

(研究協議会で出された意見)

- ・ 導入時“Color song”では、子どもたちが工夫して、歌詞を変えて発表でき、考える活動になってよかった。
- ・ 一人一人の活動を時間が保証され、既習の単語をつかって、“What's this?”の答えを導きだせるヒントがいくつも出せていた。
- ・ 担任が話をする時間を極力短くし、子どもたちの活動の時間を確保したが、指示があいまいになっていたため、的確な指示ができる工夫が必要ではないか

(まとめ)

1. 教員の共通理解のもと、授業者が子どもたちにとって「必然性がある活動」が何かを考えることにより、子どもたちに「やってみたい」、「考えたい」と思わせる授業ができる。
2. 研究テーマをさらに絞り込むことで、外国語活動で子どもたちにつけたい力が明確になる。